

ダンボールコンポストに チャレンジ☆

生ごみを堆肥にして活用をしよう♪

生ごみが堆肥になるしくみ

森にはたくさんの生物や植物がいます。
森の土の上には、たくさんの落ち葉が重なり、
その下には、ミミズやダンゴムシ、微生物などがたくさんいます。
彼らは分解者と呼ばれ、落ち葉や枯れ枝、生き物のふんや死がいなどを分解し、
植物の成長に欠かすことのできない栄養分の豊富な土壌を作っていきます。

⇒このような自然界での循環を、
ダンボールの中で再現したものが、ダンボールコンポストです。



ダンボールコンポストとは？

ダンボール箱の中に基材（ピートモス、もみ殻くん炭など）を入れた
簡単な生ごみ処理容器のことで、安価な素材で手軽に取り組みます。
投入された生ごみは、好気性（酸素を必要とする）の微生物により
分解され堆肥となります。ダンボールは、水分を外に逃がし、保温性もあるため、
微生物に適した環境をつくることができます。

Point



- ※ 安価で、手軽に始められる。
- ※ 維持費がかからない。
- ※ いやな臭いがほとんどしない。
- ※ 堆肥を生成できる。

用意するもの



- ① ダンボール箱
みかん箱など厚手で強度のある（二重構造）丈夫なもの
防水加工をしていないもの
- ② 基材：25L程度
（ピートモス 15L、もみ殻くん炭 10L〔6：4〕）
※ ホームセンターや園芸店で購入できます。
- ③ シャベル
- ④ ガムテープ
- ⑤ 新聞紙
- ⑥ 通気のための台（苗かご、角材、すのこ等）



ピートモス

ミズゴケ類などが堆積した泥炭を
脱水、粉碎したもので、
通気性・吸水性に優れ、
園芸用土や土壌改良材として用いられる。

もみ殻くん炭

もみ殻を炭化させたもの。
通気性・保肥性・排水性・雑菌抑制に
優れる。
小さい穴が多く、微生物の住み家となる。

《あると便利なもの》

- ⑦ 温度計
- ⑧ 虫を防ぐための布製のカバーや
座布団収納袋など

作り方

1. ダンボールを組み立てる。

2. ダンボールの隙間を補強する。

ダンボールの隙間を全部ガムテープで補強します。

特に下はよく補強する。

(土が漏れたり、虫の侵入を防ぎます。)



3. ダンボールの側面・底に新聞紙をひく。

ダンボールの大きさに合わせて新聞を貼ります。

4つの側面に張ります。

底にも、一枚敷く。



4. ダンボールに混合した土を入れる。

混合した土はピートモス、ともみ殻くん炭 6:4で混ぜる。

箱の60%ぐらい。

土が舞いやすいので注意。

この時、土と一緒にスコップも入れておく。

(混ぜたい時に、すぐまぜられます。)



5. 水を入れる

1L程度の水を少しずつ入れ、ゆっくりとかき混ぜる。(握れるぐらいになるまで)

☞ 水を急に入れると基材が水をはじくため、ダンボールを痛めます。

☞ かき混ぜる際に、箱を破損しないように気をつけてください。

6. ダンボールをすのこなどに乗せる。

下から、空気を取り込めるようにすのこに乗せる。



7. 新聞紙でフタを作る。

防虫・防臭のために新聞紙で蓋を作る。

☞ 座布団収納袋を使ったり、いらなくなったTシャツで蓋を作るのもGood!

設置場所

- ・雨が降らない、可能であれば日当たりが良い場所が望ましいです。(軒下、ベランダなど)
- ・風通しのよいところ。
- ・台所などの室内でも設置できます。

使い方



- ①穴を掘って生ごみを入れる。
- ②よくかき混ぜる。
- ③混ぜたらすぐ蓋をする！
(虫が入ったり、卵を産ませないようにするため。)



野菜くず



きざむ



埋める

Point



- ・生ごみは小さくするほど分解が早まります。
- ・かき混ぜる際は、箱を破損しないように注意し、
端の部分はかき混ぜないでください。
- ・生ごみを入れない日も、なるべく毎日かき混ぜてください。

投入期間3ヶ月から6ヶ月程度経過し、基材がべたつき、
分解するまでに時間がかかると感じた時が熟成を行う時期です。

堆肥の作り方



方法1：ダンボールコンポストを使う

10日に1回程度、水を入れ、かき混ぜてください。
生ごみが分解され、水を入れても温度が上がらなくなれば、
堆肥として使用できます。(2週間から1か月)

方法2：ビニール袋に入れる

ビニール袋に入れ、日陰で熟成させ、10日に1回程度かき混ぜます。
(1か月程度)

使用する時は、通常、土に10～20パーセント混ぜます。

ダンボールコンポストを成功させるポイント

生ごみについて

分解されやすいもの

- ・野菜くず
- ・くだもの皮（防腐剤の塗ってあるものは入れないでください）

特に分解されやすいもの

- ・米ぬか、廃食用油、魚のあら、肉
 - ⇒高カロリーなものは温度アップに効果的です♪
- ・コーヒー殻や茶殻など
 - ⇒消臭効果があるのでGOODです♪

分解されないもの

- ・貝殻、玉葱の皮、大きな骨、卵の殻、トウモロコシの芯等

入れないことをおススメ（虫、においの原因になりやすいです。）

- ・生肉、生魚
- ・三角コーナー、排水溝に放置してあったごみ
- ・痛んだ食品
- ・塩分の強い食品（漬物など）
- ・汁もの（水分が多いもの）



分解せず、残ったゴミは、取り出して下さい。
生ごみは、できるだけ、細かくした方が、分解が早いです。
はじめは、少量ずつ、入れて下さい。

水分

基材を握って、かたまるかバラけるか程度の固さに水分量を調節してください。

※水分量が多い場合は、米ぬかや基材を追加してください。

温度

- ◆ 20℃以上が理想です。
- ◆ 温度が低すぎる（10℃以下）と、微生物の活動が弱まり、分解が進まなくなるため廃油や米ぬかなど高カロリーなものを追加や、水分量の調節を行ってください。
- ◆ 冬場は、ダンボール箱を二重にしたり、毛布で包むことも有効です。

虫が発生してしまったら・・・

① 温度を上げる！

廃油や米ぬかなどで温度を上げてください。

多くの虫は死んでしまい、その死がいも分解されます。

② 天日干し！

黒いビニール袋に基材を移し、日当たりの良いコンクリートなどの温度が上昇する場所で、空気を抜いて天日干しにしてください。（1日か2日でダンボールに戻してください。）



生ごみを台所等に放置すると虫が卵を産み付けるため、すぐにコンポストに入れるようにしてください。
嫌なにおいがするな～と思ったら無理はせず可燃ごみに出してください。